

## 第 37 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

# 開催記録（案）

### 1 開催概要

- 日 時：令和 5 年 11 月 1 日（水）10：00 ～ 12：00
- 場 所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授）</li> <li>・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー）</li> <li>・古関 潤一氏（ライト工業株式会社 R&amp;D センター テクニカルオフィサー）</li> </ul>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁文化財第二課 史跡部門</li> <li>・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課</li> <li>・港区街づくり支援部</li> <li>・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課</li> <li>・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課</li> <li>・東京都交通局 建設工事部 計画改良課</li> <li>・独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部</li> <li>・独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 基盤整備計画部</li> <li>・鉄道博物館 学芸部</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部</li> <li>・JR 東日本コンサルタンツ株式会社</li> <li>・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部</li> <li>・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部</li> </ul>
事務局 東日本旅客鉄道(株) 京浜急行電鉄(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部</li> </ul>
サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パシフィックコンサルタンツ株式会社</li> </ul>

■ 当日配布資料

部会②

- ・ 次第
- ・ 資料 1：調査の進捗について
- ・ 資料 2：京急線連立・遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

## 2 議事要旨

---

### 2.1 議事録確認

#### 第 36 回委員会（10/4）部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。（委員一同）

### 2.2 部会②

#### （1）開会

- 第 37 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会②を開会する。（事務局）

#### （2）調査の進捗について

- 資料 1 について説明する。（港区）
- 北棟の東海道の護岸を想定したトレンチ調査について、想定通り東海道の護岸が検出された。4-2A 街区の検出護岸より古く、おそらく 17 世紀中頃の寛永年間の街道整備時の遺構だろうと思われる。（委員長）
- 西側から杭が 2 本出てきたが、交通局の調査個所で検出された江戸初期と思われる土留めに連なるものかは断定できない。（委員長）
- 東側の部分で東海道の護岸がどう検出されるかが試掘の課題となる。（委員長）
- 明治期の埋め立てに伴う遺構も確認が必要になる。（委員長）
- 連立 3 工区の調査について、護岸の石垣の北に続く部分か、確認がされた。検出された間知石は多少動いている可能性があるが、基本的にはここに石垣の列がある可能性が高いと考えている。今後南側でも同様の試掘調査を行い、位置を特定していきたい。方向を確認することが今後の調査の参考になる。（委員長）
- 南棟のボーリング調査では、黒褐色土の下に硬質粘土層が一部しか検出されなかった。No.9 は杭をボーリングの一部で抜いた可能性があり、また、No.10 は凝灰岩の石敷きがあったかもしれないと思われる結果となっている。今後周辺をどうやって確認するか検討が必要である。（委員長）
- 結果から、南棟についていきなりシートパイルを打設することはできない。港区の判断で進めてもらいたい。（委員長）

- 重ね図から柱状図の結果が想定でき、良い調査である。層 1 が明治 5 年の堆積物だとすると遺物の評価が気になる。捨てられたものなのか、元々あったものなのか。凝灰岩が大谷石の場合、流通するのはもっと後の時代のはずであり、おそらく捨てられたものかなとは感じている。凝灰岩は興味深いのが、何か建物があつたとは思えないし、検出された杭も構造物としては短い気がする。(小野田委員)
- 資料 1-3-1 に 2 工区と表記があるが、3 工区の間違いである。(京急)
  - ← 修正する。(港区)
- 柱状図で層 1 が攪乱とあるが、全て同じような攪乱なのか。(都教育)
  - ← 同じような攪乱である。(港区)
- 小野田委員から指摘があつた、層 1 の部分が南側に向かつて厚くなっていくということと、3 工区の部分について、京急連立事業の調査でトレンチをいくつか入れていると思うが、オリーブ色シルト層の所見を踏まえて、堆積状況を整理・評価したほうが良いと思う。(都教育)

### (3) 京急線連立・遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

- 資料 2 について説明する。(京急)
- KMP1 の橋脚については、既設の構造物にあたり、遺構が遺存していない可能性が極めて高いという判断で良いと思う。KMP2 橋脚については、3 本の杭を打つことになっているが、南から 1、2 本目は位置を変更するというので良いか。(委員長)
  - ← 港区と調査位置の検討を深度化させ、必要ならば回避する。(京急)
- 北から 4 本分は杭打設が可能であるという判断をしたいがよろしいか。南の 2 本については、今後の調査結果を受けての判断となる。(委員長)
  - ← 異議なし。(委員一同)
  - 本件を了承とする。(委員長)

### (4) その他

### (5) 閉会

## 3 議事録

### 3.1 議事録確認

#### (1) 開会

- (事務局) 第 37 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会します。
- ・ 挨拶
  - ・ 資料確認
  - ・ オンラインの案内
  - ・ 次第説明

#### (2) 議事録確認

- (委員長) 前回の部会②の議事録について修正等の指摘はあるか。  
(委員長) 何か修正があれば本委員会が終了するまでに指摘してもらいたい。なければこれで議事録を確定する。

### 3.2 部会②

#### (1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

#### (2) 調査の進捗について

- (港区) 資料 1 について説明する。  
(委員長) 説明に対して質問、意見はあるか。  
(委員長) 北棟の東海道の護岸を想定したトレンチ調査について、想定通り東海道の護岸が検出された。4-2A 街区の検出護岸よりも古く、交通局の調査の事例と比べてみると、おそらく 17 世紀中頃の寛永年間の東海道の街道整備時の遺構だろうと思われる。これより東側に明治 5 年の土留め、および石垣が残っている可能性がある。一方、西側からは杭が 2 本出てきた。交通局の調査で江戸初期のものと思われる土留めが検出されたが、これに連なるものかは現段階では断定できない。非常に古い時期のもので、連続した土留めがあるかどうかは保証の限りではないので、部分的には杭があったり、あるいは全く土留めがなかったりということもあり得ると考えている。さらに東側の部分で東海道の護岸がどう検出されるかが試掘の課題となる。明治期の埋め立てに伴う遺構についても、確認が必要になると思っている。資料 1-3-1 の

連立 3 工区の調査については、護岸の石垣の北に続く部分が、確認がされた。資料 1-3-2 に写真があるが、間知石が一部出てきている。多少動いている可能性はあるが、基本的にはここに石垣の列がある可能性が高いと考えている。今後南側でも同様の試掘調査を行い、護岸の石垣の位置を特定していきたい。護岸の石垣の方向が北棟に連なっていくと想定されるが、その方向が実際はどうなっているのか確認することが、今後の調査の参考になる。資料 1-4 の南棟のボーリング調査については、黒褐色土の下に、硬質粘土層が一部しか検出されなかった。No.9 は杭をボーリングの一部で抜いた可能性があり、また、No.10 は凝灰岩の石敷きがあったかもしれないと思われる結果となっている。今後、No.9 と No.10 周辺をどう確認していくか検討しなければならない。南棟についてもいきなりシートパイルの打設をすることはできないので、なんらかの検討が必要になってくるかと思う。そのあたりは港区の判断で進めてもらいたい。

(小野田委員) おそらく、地形図が正しいとすれば、この方向で 1～10 までボーリングを実施すると、層 1 が右肩上がりに上がっていくのは想定できるのでいい調査だと思う。層 1 が明治 5 年以降の堆積物だとすると、遺物の評価が気になる。捨てられたものなのか、元々あったものなのか。凝灰岩が大谷石の場合、流通するのはもっと後の時代のはずであり、おそらく捨てられたものかなとは感じている。凝灰岩については興味深いが、ここになにか建物などがあったとは思えないし、検出された杭も構造物としては短い気がする。

(京急) 資料に 1 点修正がある。1-3-1 のタイトルに「京急線連続立体交差事業（2 工区）」とあるが、3 工区の間違いである。

(港区) 公開時に修正する。

(都教育) 柱状図で、層 1 が攪乱とあるが、全て同じような攪乱なのか。

(港区) 同じような攪乱である。

(都教育) 小野田委員から指摘があった、層 1 の部分が南側に向かって厚くなっていくということと、3 工区の部分について、京急連立事業の調査でトレンチをいくつか入れていると思うが、オリーブ色シルト層の所見を踏まえて、堆積状況を整理・評価したほうが良いと思う。

### (3) 京急線連立・遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

(京急) 資料 2 について説明する。

(委員長) 説明に対して質問、意見はあるか。

(委員長) KMP1 の橋脚については、既設の構造物にあたり、遺構自体が遺存していない可能性が極めて高いという判断で良いと思う。KMP2 橋脚については、3 本の杭を打つことになっているが、南から 1、2 本目は位置を変更するということが良いか。

(京急) 港区と調査の位置を深度化していく中で、変更を検討し、必要ならば回避する。

(委員長) 結論から言うと、北から 4 本分は杭の打設が可能であるという判断をしたいがよろしいか。南の 2 本については、今後の調査結果を受けての判断となる。

(委員長) 異論がないため、本件を了承とする。

#### (4) その他

(委員長) その他なにかあるか。

#### (5) 閉会

(委員長) 特になければ部会②を閉会する。

以上